

【イベント報告】

イベント報告

◆神戸市立青少年科学館見学会 および科学技術展示における VRの利用に関する討論会

神徳徹雄

産業技術総合研究所

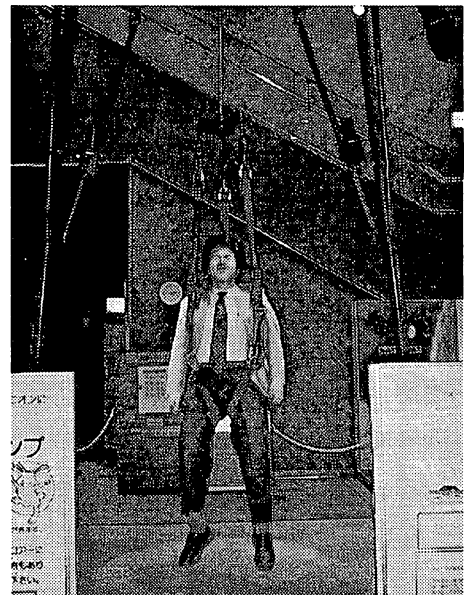
(Newsletter Vol.6, No.2より転載)

2001年12月20日(木)に、計測自動制御学会(SICE)VR工学部会と神戸市立青少年科学館との共催で“科学技術展示におけるVRの利用”というテーマの討論会が神戸市立青少年科学館において開催された。参加者は、VR研究者側が7名、科学館のスタッフ側が7名の合計14名で、予定時間を越えて閉館時間を過ぎるまでディスカッションが行われた。

討論会の前に、各参加者が自由に科学館を見学させて頂いた。冬休み直前の平日のためか、待つことなく展示物を体験することができたが、とても1時間半程度では全部を見て回ることは出来なかった。故障中で使えないものは見当らず、科学館スタッフの努力を垣間見ることが出来た。

討論会では、最初に科学館から高橋副館長、春名展示課長、太田指導主事より概要説明とVR技術に関わる展示が紹介された。科学館は神戸市が運営している施設であり、プラネタリウムと430点の展示物を有し、全国でもベスト5に入る規模を誇っている。昭和59年に開館して17年目であり、この8月に700万人目の入場者を迎えた。ハングライダーを疑似体験する展示、体重が6分の1になった月面ジャンプを疑似体験できる展示とともに、新年に新しく導入される予定のロボットシステムの展示が紹介された。

次に、VR分野の研究者側から4つの話題が提供された。大阪大学の北村先生からはビジュアル技術のトレンド紹介と、科学館の展示として同時に多数のユーザが立体視を共有できる技術としてIllusion Holeシステムの導入提案がされた。ATRの柳田さんからはTelexistence技術、ATRの野間さんからはLocomotion技術のトレンドがそれぞれ紹介された。最後に、アイスマップ(有)の伊藤さんから、企画屋としての立場から体験談を交えて、研究室の面白い技術を科学館の展示として実現したい気持ち話が語られた。



人気展示の月面ジャンプを体験中の参加者

これらの講演後に熱いディスカッションが行われた。時間を忘れて展示物の技術的な話、全国の科学館の様子、新しい展示物の導入経緯、展示物を更新するための予算獲得などに関して情報交換が行われた。科学館自体が仮

想体験するところであり、VR 技術に対する科学館スタッフの大きな期待が示された。

今回の討論会をきっかけとして科学館のスタッフ側と VR 研究者側とのコミュニケーションを深めることから始めることになりました。早速、この行事を企画・運営していただいた ATR の野間さんを中心にして、科学技術展示に興味をもたれている方々を募ることにいたしました。ボランティアが10名以上集まるようであれば、SICE の新しい部会、または、VR 学会の研究会として活動を始

めて行きたいと考えています。

まずは野間さん (noma@atr.co.jp) まで連絡いただければ幸いです。

参考

神戸市青少年科学館のホームページ

<http://www.ksm.or.jp/>

SICE VR 工学部会のホームページ

<http://www.mis.atr.co.jp/sice-vr/>